

第2回 拠点避難区防災会

令和8年度

本日のスケジュール

1 あいさつ

2 内容

- ① 市地域防災計画の主な修正内容について(P3-5)
- ② 市の今年度の主な取り組み(P6-8)
- ③ 市総合防災訓練について(P9-11)
- ④ お知らせ(P12)

1. 主な被害想定について(森本・富樫断層帯地震)

一番被害が大きいシナリオを採用: 冬・朝5時・強風時

被害項目	新想定(今回)	旧想定
全壊・全焼棟数	1,281 棟	222 棟
避難者数(1週間後)	8,264 人 (内 避難所:4,128人)	2,471 人
断水人口	約 5.6 万人	-

2. 避難所基準(スフィア基準)と備蓄について

スフィア基準(国際基準)の導入

1人あたり最低面積の拡大

2.5㎡ → 3.5㎡

備蓄対象の考え方を変更

「避難所の人」以外に在宅・車中泊避難者も含む

対象: 2,471人 → 5,600人へ拡大

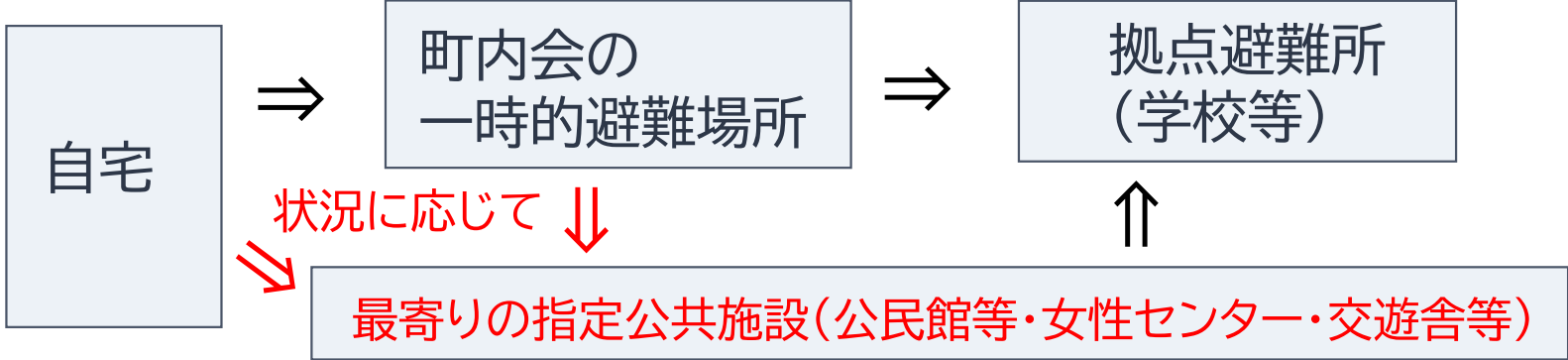
備蓄について(合計3日分)

市による備蓄(2日分)

国・県・協定先(1日分)

3. 緊急避難先の追加と多様な避難者支援

◇避難の流れと今回の追加項目の位置付け



【追加】近くの安全な場所へ！緊急避難先として最寄りの指定公共施設の開放

◇ペット動物への支援

- 専用スペースの確保に努める
- 獣医師会等との外部連携

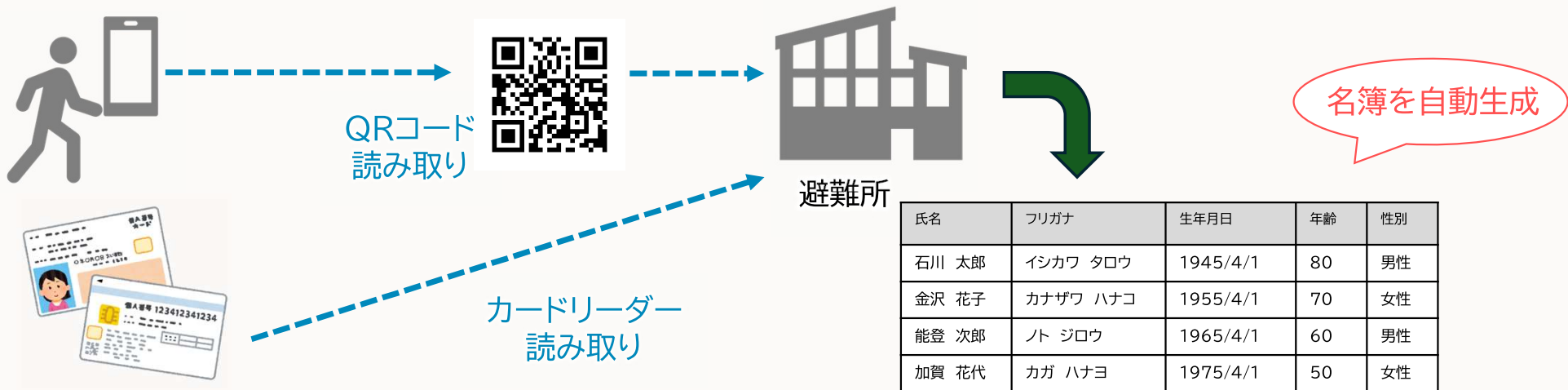
◇車中泊避難者への対応

- 駐車スペースでの避難者把握
- 必要に応じた物資・情報の提供

1. 避難所管理システムの導入

受付をデジタル化し、名簿作成を自動化

能登半島地震では、避難所で被災者情報の集約や共有に時間を要し、迅速な支援が行えなかったため、スマートフォンやマイナンバーカードでの受付が可能なシステムを導入し、災害対応の効率化と迅速かつ継続的な支援を可能にします。



2. 学校施設別利用計画の作成(更新)

◇拠点避難所の機能別スペースの確保

一般避難スペース

(体育館・多目的室)

要配慮者スペース

(高齢者・障がい者・乳幼児)

生活維持・衛生拠点

(救護室・更衣室・物資保管)

ペットスペース

(ペット同伴・隔離室等)

◇ 調査・策定プロセス

1. 現地踏査・空間診断

- ・各部屋の有効面積の確認
- ・管理者ヒアリングによる運用制限把握

2. 施設別配置レイアウト案の作成

- ・居住面積と通路幅の確保
- ・生活動線と衛生動線の分離

3. 避難所カルテの作成

- ・校舎内使用例を記載
- ・避難者の収容想定を記載

3. 避難所運営マニュアルの作成

避難所運営マニュアル、感染症予防マニュアル等を統一したものを作成中

◇マニュアル体系の再構築

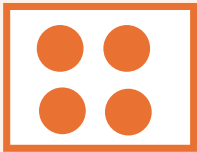
避難所開設編

・発災直後の「鍵開け～受付～誘導」の標準化フロー



避難所運営編

・運営委員会の組織構成と各係のミッションを整理
・要配慮者・感染症・ペット等の多様なニーズへの対応



配置計画図(拠点避難所10施設別)

・レイアウト案をマニュアルに統合



1.市総合防災訓練の流れ

9月27日(日) 8:00～

08:00 訓練開始

- ・シェイクアウト訓練(しゃがむ・かくれる・じっとする)
- ・安否確認訓練(黄色いタオル等)
- ・町内会ごとの一時的避難場所での独自訓練

09:00頃 拠点避難所訓練

- ・拠点避難所での各種体験訓練(開始時間は各所で決定)

2.市総合防災訓練(町内会・家庭の取り組み)

町内会・自主防災組織

- ・訓練参加の呼びかけ(実施案内)
- ・安否確認(黄色いタオル・結ネット)
- ・備蓄品確認・炊き出し訓練等

家庭での取り組み

- ・シェイクアウト訓練(身を守る行動)
- ・黄色いタオルの掲出・結ネット報告
- ・備蓄品の確認

3.拠点避難所体験訓練

■訓練内容

■参加者および予定人数

■実施時間

■使用物品の確認(予定数)

- ・長机(台)
- ・イス(台)
- ・段ボールベッド(セット)
- ・
- ・